

**平成28年度
第6回 三重県河川整備計画
流域委員会**

二級河川 田中川

平成28年12月26日





目次

1. 流域の概要
2. 河道の変遷
3. 主要洪水の概要
4. 河川の整備状況
5. 河川の利用・環境
6. 今後の予定



1. 流域の概要

田中川流域の概要



関係市

- 津市
- (旧河芸町)
- 鈴鹿市

主要道路

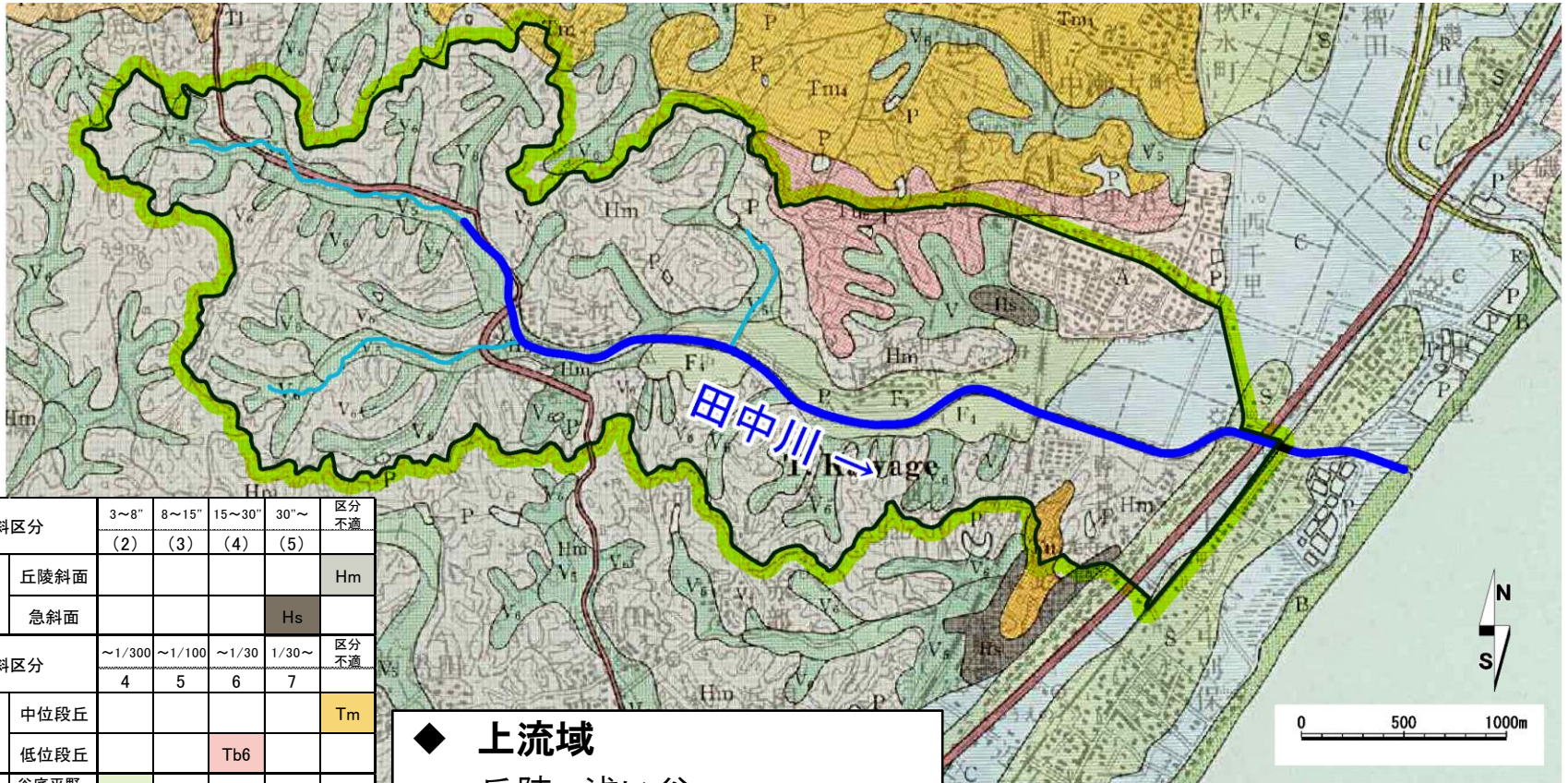
- 国道23号
- 国道306号
- 県道645号(上野鈴鹿線)
- 県道651号(三行上野線)

鉄道

- 近鉄名古屋線
- 伊勢鉄道

田中川流域
 流域面積: 約8.5km²
 幹線流路延長: 約7.0km
 県管理区間延長: 約5.4km

- 上流域から中流域は田中川沿いに浅い谷が分布し、中流域から下流域にかけては平野がみられるようになる。流域内に山地はみられない。



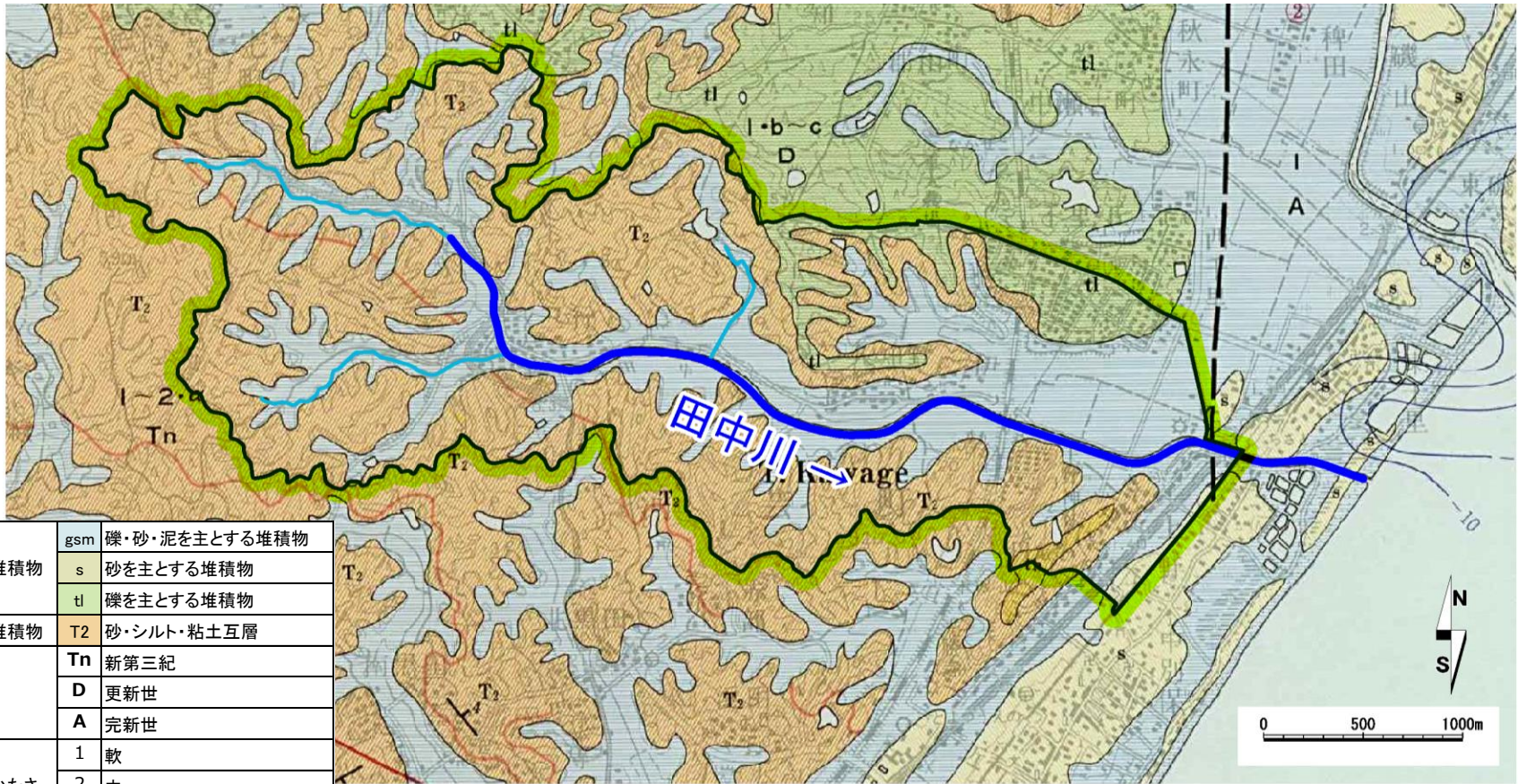
傾斜区分		3~8"	8~15"	15~30"	30"~	区分不適
		(2)	(3)	(4)	(5)	
丘陵	丘陵斜面					Hm
	急斜面				Hs	
傾斜区分		~1/300	~1/100	~1/30	1/30~	区分不適
		4	5	6	7	
砂礫台地	中段段丘					Tm
	低位段丘			Tb6		
低地	谷底平野・ 氾濫平野	F4				
	三角州・ 海岸平野					C
	砂州・浜堤					S
	海浜					B
その他	浅い谷		V5	V6		V
	人口改変地					A
	河川・池					P

- ◆ **上流域**
丘陵、浅い谷
- ◆ **中流域**
丘陵、台地、浅い谷、平野
- ◆ **下流域**
丘陵、三角州・海岸平野

地形分類図

資料：国土交通省HP
5万分の1都道府県土地分類基本調査
津西部・津東部
昭和62・63年度調査

- 田中川沿いは礫・砂・泥を主とする堆積物から構成され、その外側の地域は砂・シルト・粘土互層が分布する。下流域には砂を主とする堆積物の分布もみられる。



未固結堆積物	gsm	礫・砂・泥を主とする堆積物
	s	砂を主とする堆積物
半固結堆積物	tl	礫を主とする堆積物
	T2	砂・シルト・粘土互層
時代	Tn	新第三紀
	D	更新世
	A	完新世
岩体のかたさ	1	軟
	2	中
	3	硬
岩片のかたさ	1	軟
	2	中
	3	硬
風化の深度	α	浅い(約3m以浅)
	β	中程度(約3~10m)
	γ	深い(約10m以深)

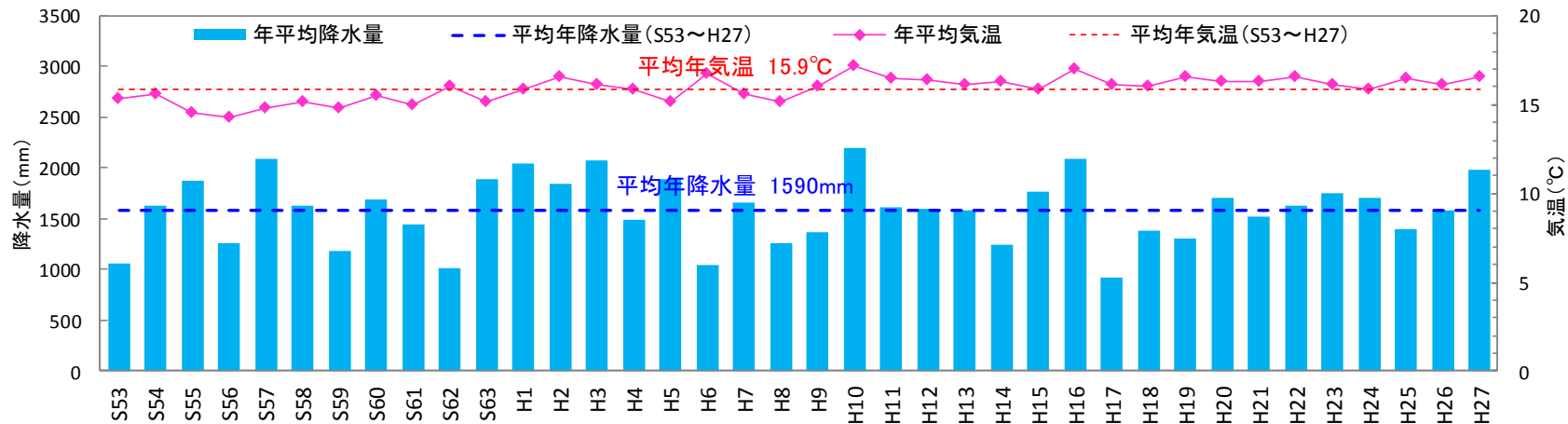
表層地質図

資料：国土交通省HP 5万分の1都道府県土地分類基本調査
津西部・津東部（昭和62・63年度調査）

□ 流域内の植生は、人為的な影響を受けた代償植生または植林地から構成される。

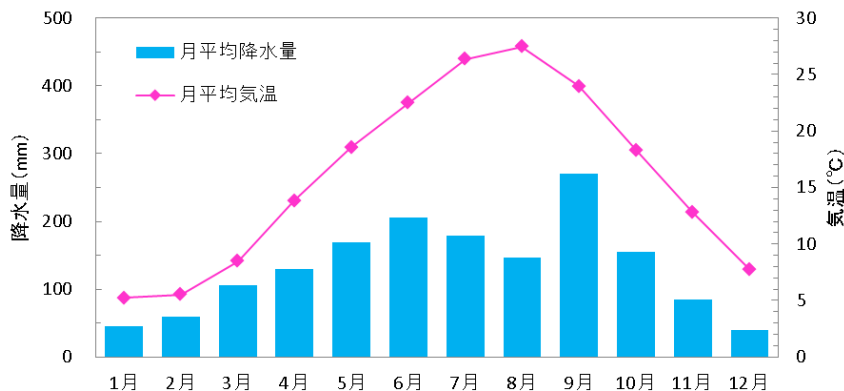
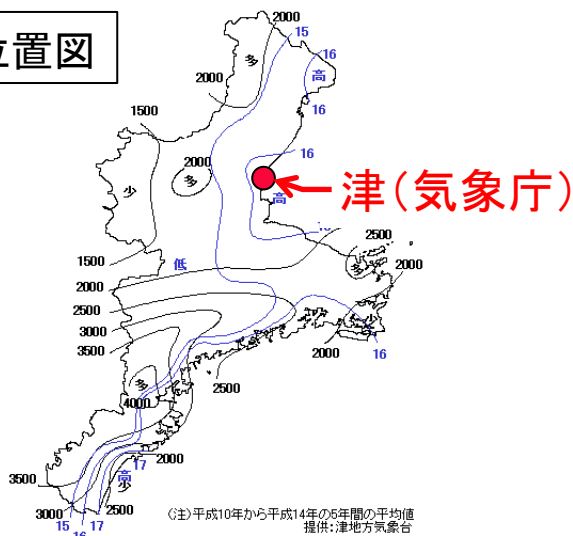


- 田中川流域の年平均気温は15.9℃、平均年降水量は約1,590mmであり、全国平均1,690mm(※)を下回る。
- 流域の気候は比較的温暖で、6月及び9月の降水量が多い。



【津地方気象台】年平均降水量・気温分布 (S53~H27)

位置図



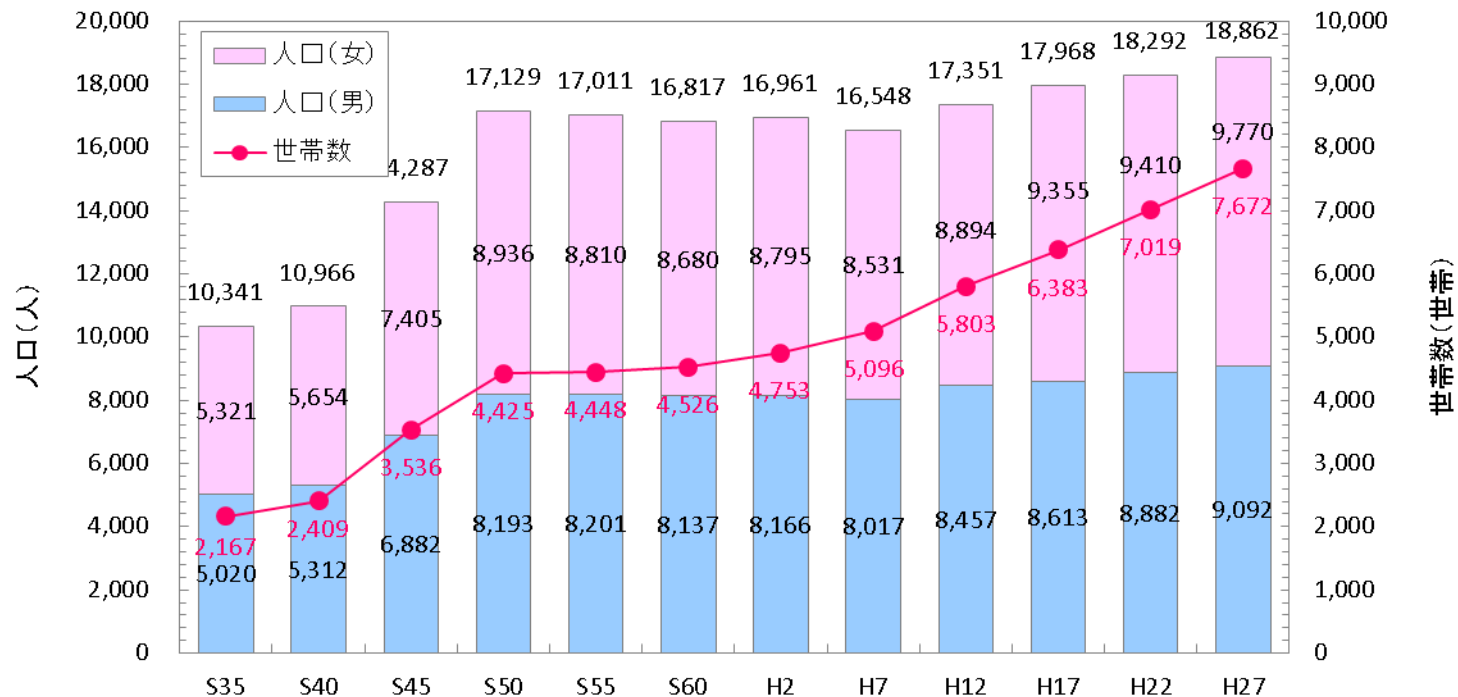
【津地方気象台】月平均降水量・気温分布 (S53~H27)

データ出典：気象庁HP (過去の気象データ検索)

※ 出典「平成27年版日本の水資源について」(昭和56年から平成22年(1981年から2010年)の全国約1,300地点の資料をもとに国土交通省水資源部で算出)



- 平成27年の津市の統計によると、田中川流域に位置する旧河芸町の人口は約1万8千人、世帯数は約7千6百世帯
- 昭和35年と平成27年を比較すると、人口は約1.8倍、世帯数は約3.5倍に増加

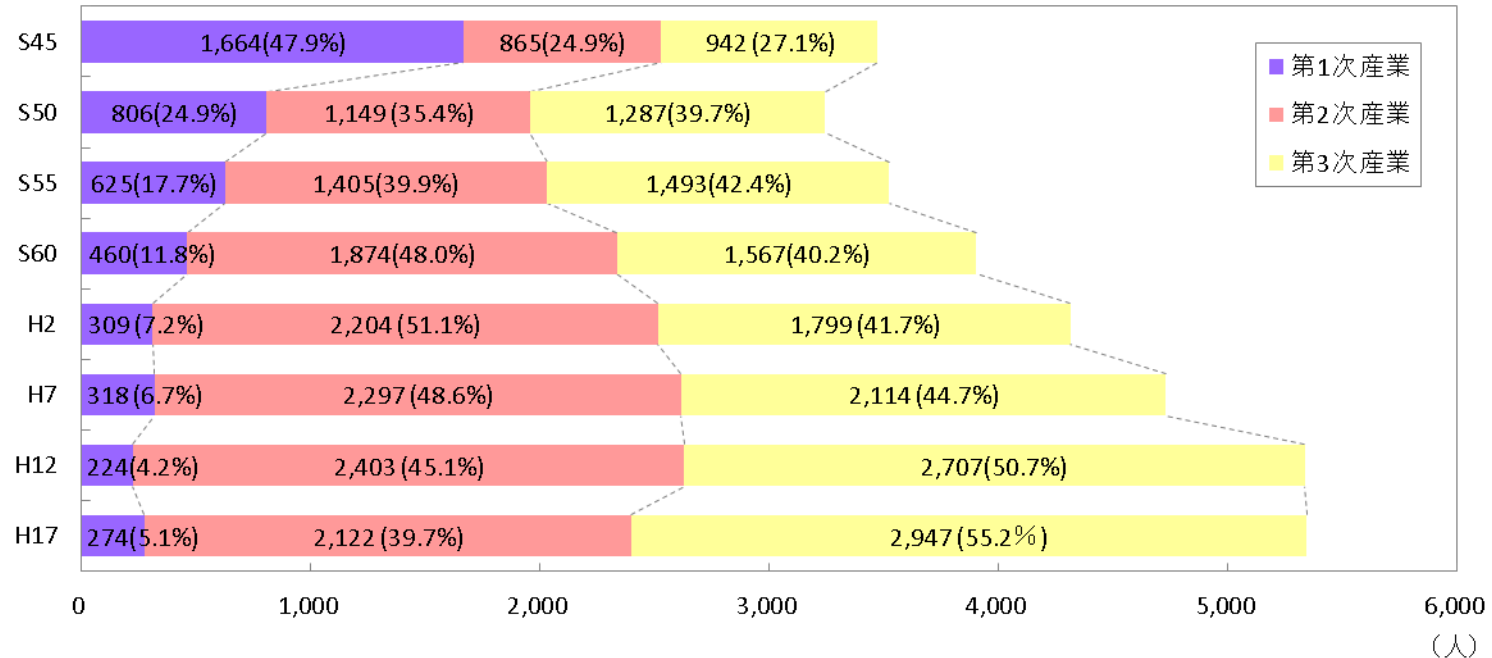


旧河芸町の人口と世帯数 (S35~H27)

データ出典：三重県統計書（三重県HP）

平成22年、平成27年のデータは、津市HP（地区別世帯数および人口）より

- 田中川流域に位置する旧河芸町の産業別就業者数の推移は、昭和45年と平成17年を比較すると、第一次産業に従事する人の割合が大きく減少し、第二次産業・第三次産業に従事する人の割合が増加している。

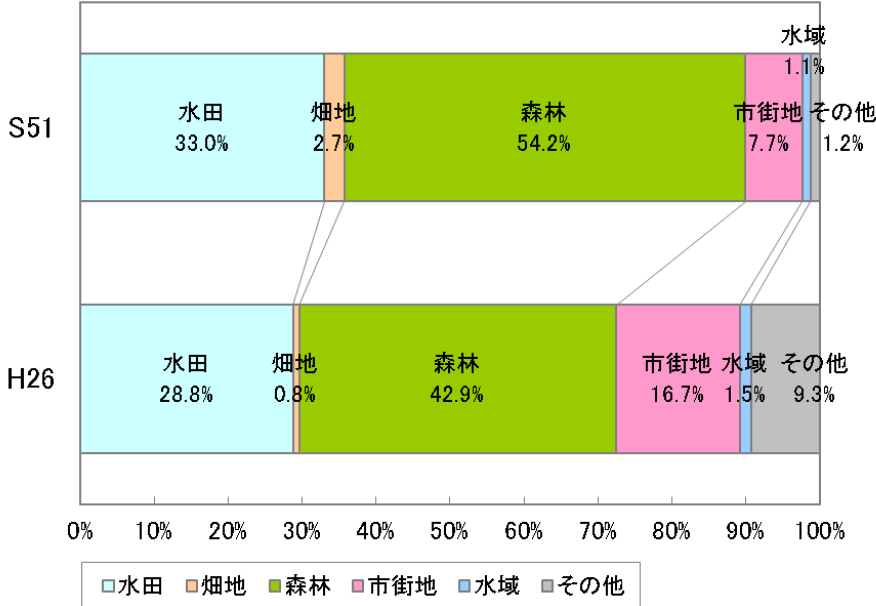
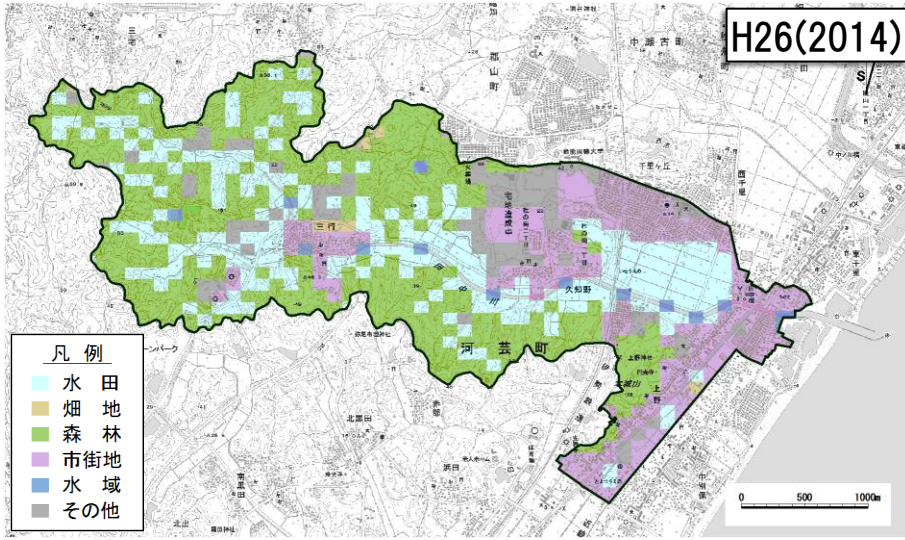
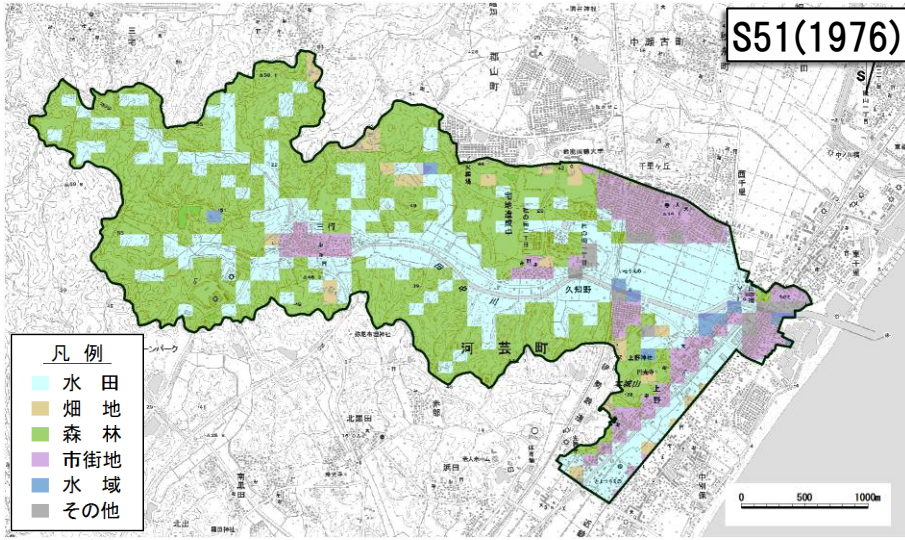


旧河芸町の産業別就業者数 (S45~H17)

データ出典：三重県統計書 (三重県HP)
(産業 (3部門) 別常住地、従業地別就業者数のうち、昼間就業者)

土地利用の変遷

- 水田は昭和51年(1976)で33.0%を占めていたが、平成26年(2014)には28.8%に減少
- 市街地は昭和51年(1976)で7.7%を占めていたが、市街化により平成26年(2014)には16.7%に増加
- 田中川の中流と下流で市街化が進んだ。



出典：国土数値情報



円光寺



華林廟



伊勢上野城跡

あわせぐちかめかん
合口甕棺
(河芸図書館)

弘法井戸

あみにかかった
人魚 (伝承)

■歴史

原始・古代

100年頃、上野に弥生文化が伝わる。650年頃、三行に陶棺などを埋葬施設とした古墳が築造される。

中世

1358年に円光寺が創建され、足利義光、足利義政らが円光寺の所領を安堵する。永禄12年、織田信包が上野城に入り、改修築城する。その後、織田信長の妹であるお市の方と江ら三姉妹が伊勢上野城に移り住む。

近世

江戸時代に入り、伊勢街道が繁栄を極める。特に、上野宿は旅人の宿泊が多く、宿場町として発展した。享和2年、滝沢馬琴が伊勢神宮の帰路、上野を通り句を詠む。文化2年の4月13日から16日にかけて、伊能忠敬が測量を行った。

近現代

明治22年町村制が施行され、豊津・上野・黒田の三村となる。昭和29年に豊津村・上野村・黒田村が合併、河芸郡河芸町が発足。昭和31年には安濃郡と河芸郡が合併、安芸郡となる。平成18年、市町村合併により、現在の津市となる。



□ 都市計画法

流域全体が津市と鈴鹿市の「都市計画区域」に指定されている

□ 自然公園法

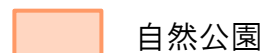
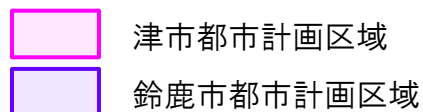
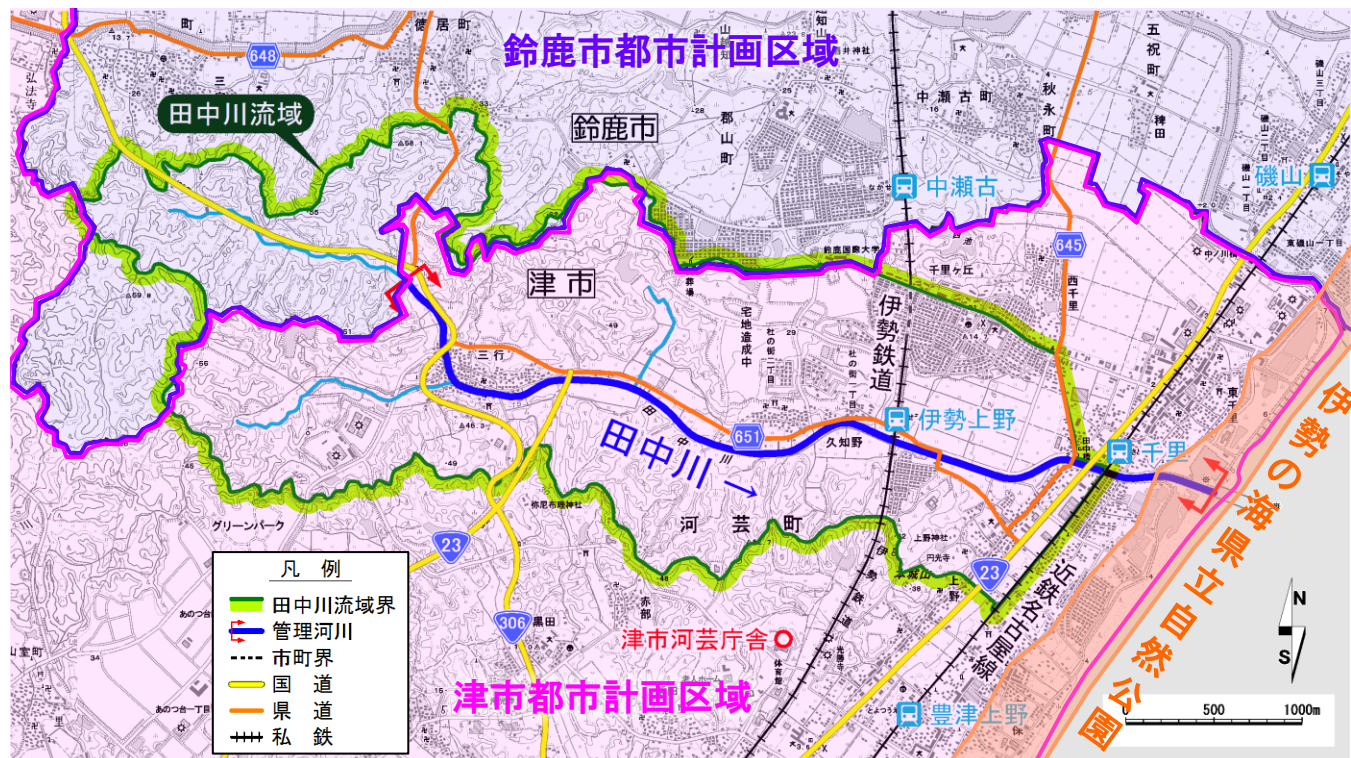
河口部を含む沿岸域一帯が「伊勢の海県立自然公園」に該当する

□ 鳥獣保護管理法

「鳥獣保護区」の指定はない

□ 砂防法

「砂防指定地」の指定はない

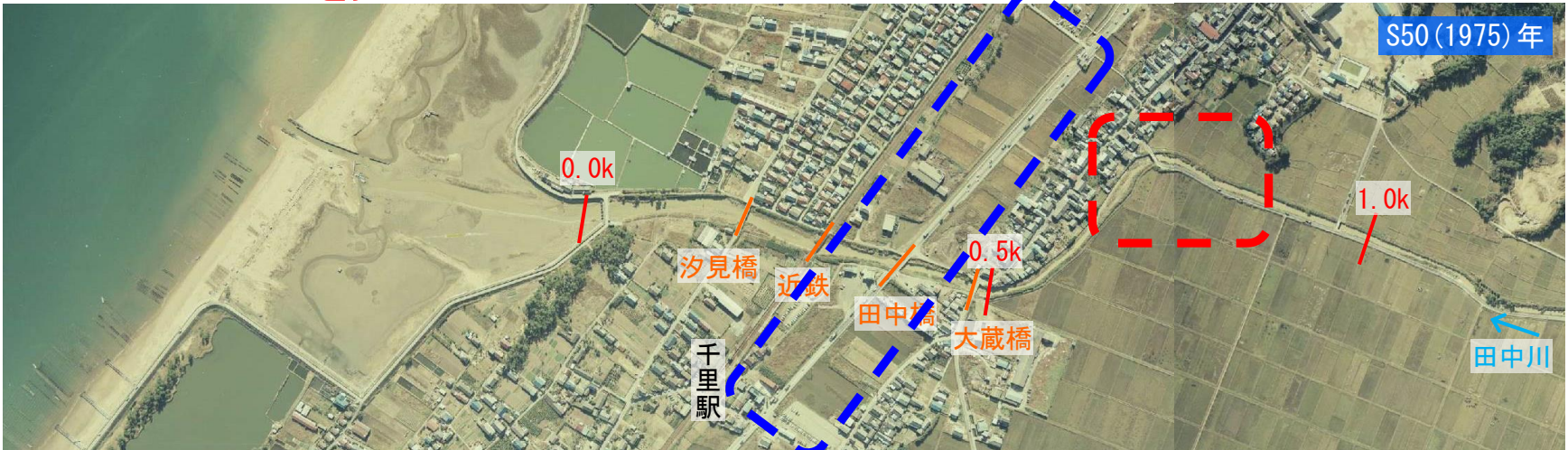




2. 河川の現状

河道の変遷<下流域>

- 河口部の導流堤や防潮水門が完成している。
- 田中川下流沿川 \square は昭和50年は農地だが、平成24年は市街化の進行が見られる。
- 河道改修により \square の流路が変化しており、川幅も拡幅されている。



S50年距離標はH24年距離標をもとに記入

河道の変遷<中流域>

- 田中川の流路の法線に大きな変化は見られない。
- 河道改修により河道が拡幅されているのが確認できる。



河道の変遷<上流域>



- 田中川の流路の法線に大きな変化は見られない。
- 国道306号、県道651号、中勢バイパスの建設に伴い、新三行橋等が新設されている。



S50年距離標はH24年距離標をもとに記入



3. 治水の概要

□ 昭和49年7月に既往最大の浸水被害が発生。

浸水発生年月日	異常気象名	浸水家屋戸数		時間 最大雨量 (mm)	水害区域 面積 (ha)	水害要因
		床上 (戸)	床下 (戸)			
昭和28(1953) 9月22日～9月26日	台風13号			22.4		
昭和34(1959) 9月26日～9月27日	伊勢湾台風 (台風15号)	26	274	34.2		
昭和44(1969) 8月20日～8月25日	台風第9号	0	0	16.5	45.0	—
昭和46年(1971) 8月27日～9月13日	台風23、25、26号 及び秋雨前線豪雨	0	29	44.5	300.0	溢水
昭和46年(1971) 9月26日	台風第29号	12	276	41.5	76.0	溢水、内水
昭和47年(1972) 9月6日～9月19日	豪雨及び 台風第20号	17	39	35.0	31.0	溢水、内水
昭和49年(1974) 7月13日～8月1日	断続した豪雨	131	240	59.5	72.3	破堤、溢水
昭和51年(1976) 9月7日～9月14日	台風第17号と豪雨	0	14	44.5	73.0	内水
平成24年(2012) 9月27日～10月1日	台風17号	1	25	63.0	0.2	有堤部溢水



雨量観測所位置図

出典：国土交通省「水害統計（昭和37年～平成27年）」、「伊勢湾台風災害史」

※1 時間最大雨量は、H24は久知野における観測値。H24以外の年は、津地方気象台の観測値

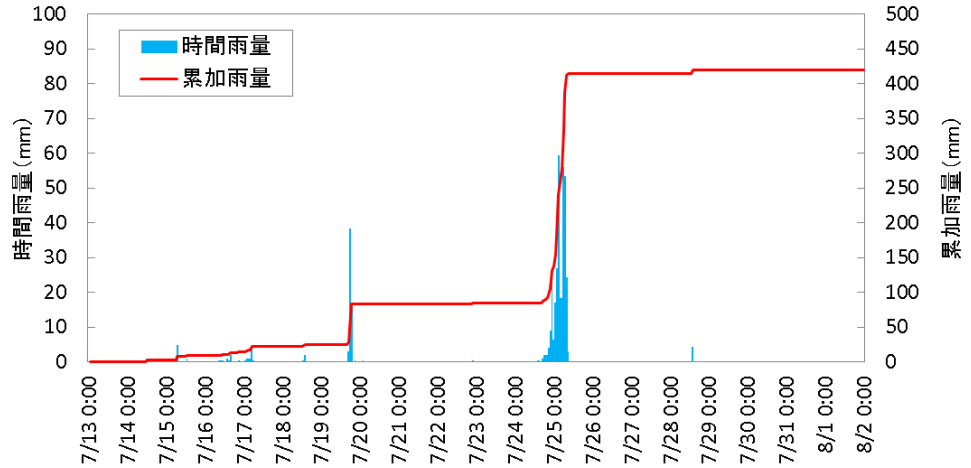
※2 伊勢湾台風については、「伊勢湾台風災害史」（三重県）の河芸町の値を掲載

■昭和49年（断続した豪雨）での被害状況

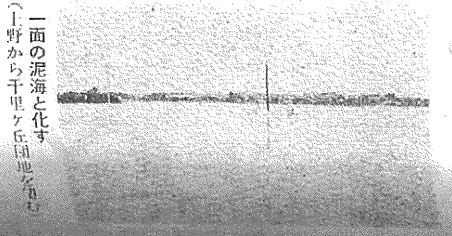
- 平成49年7月13日～8月1日の断続した豪雨では、津地方気象台で時間最大雨量59.5mmを記録した。累加雨量は419.5mmに達した。
- 床上131戸、床下240戸の浸水被害が生じ、災害救助法が適用された。



田中川(左上)がはんらん



津地方気象台で観測された雨量



(一) 一面の泥海と化す
上野から千里ヶ丘団地を流す



社殿が全壊した三行神社
(三行地内)

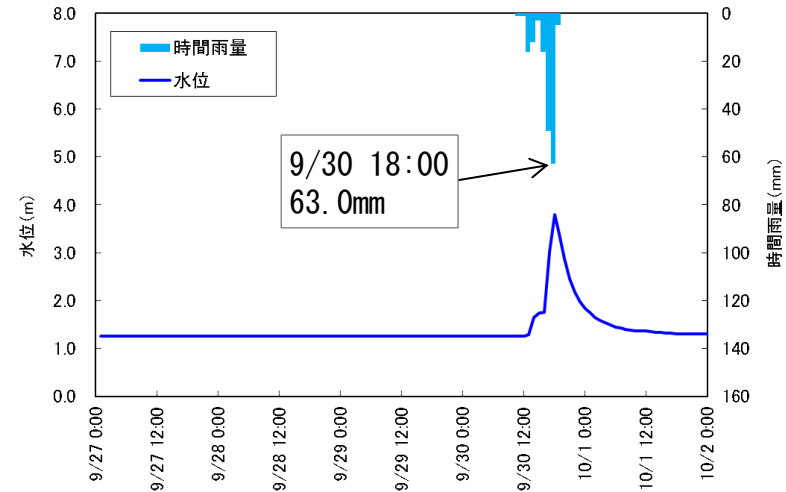


(左) 舗装がはぎ取られた久知野
地内の県道、左が田中川

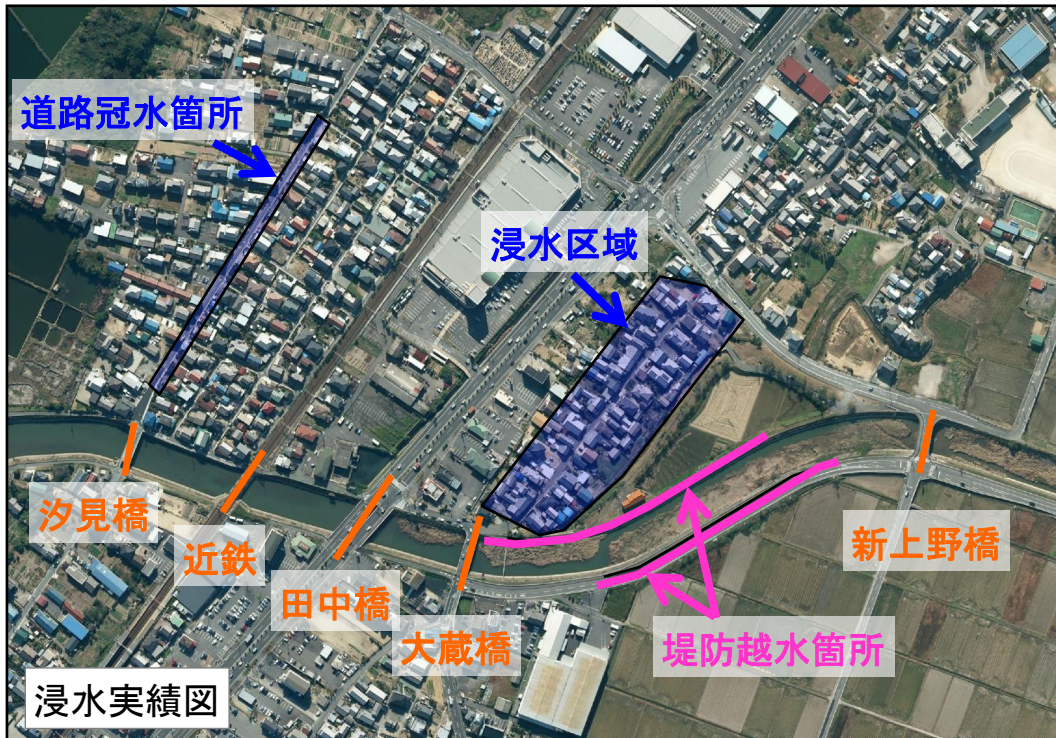
■平成24年（台風17号）での浸水被害



- 平成24年台風17号では、久知野観測所で時間最大雨量63.0mmを記録した。
- 床上1戸、床下25戸の浸水被害が生じた。
- 新上野橋～大蔵橋では、左岸・右岸ともに越流があった。
- また、道路の冠水も見られた。



久知野観測所の雨量と水位

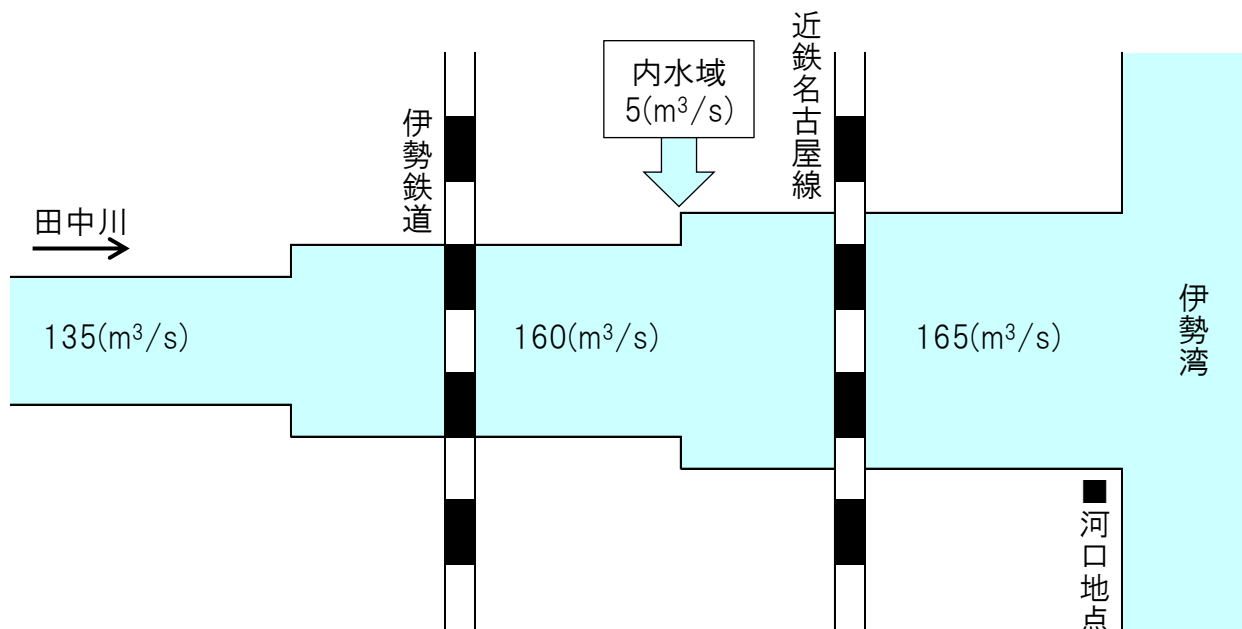


田中川右岸の越流箇所（翌日撮影）

- 田中川は計画規模を1/50として、昭和60年に全体計画が策定されている。

全体計画の概要

計画規模	1/50
基準点	河口地点
流域面積	約8.5km ²
計画高水流量	165 m ³ /s



流量配分図



河川の整備状況

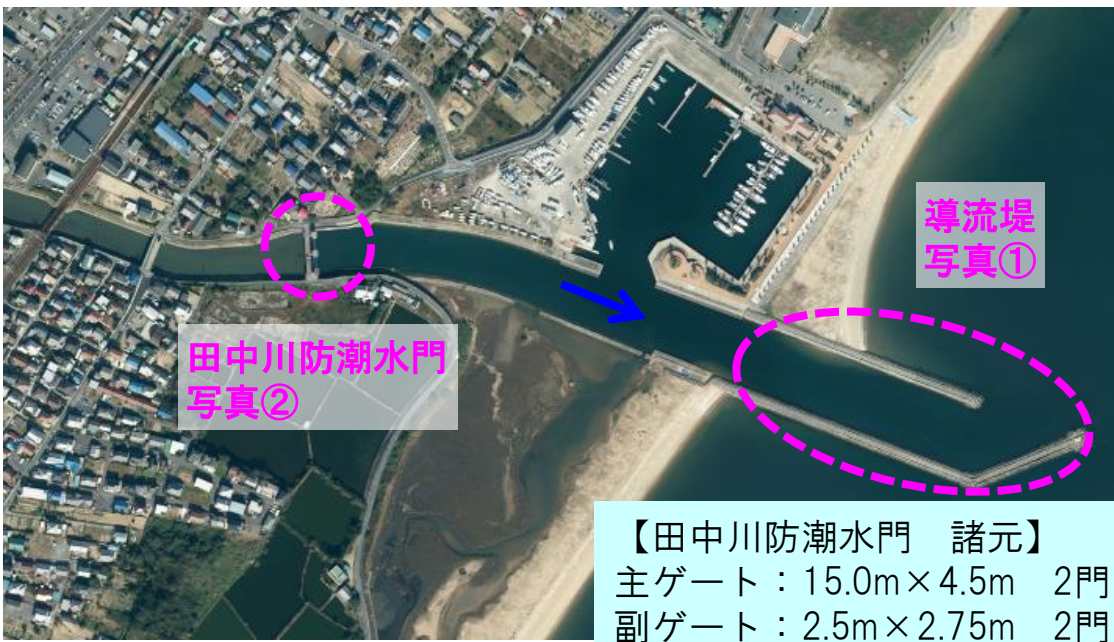
- 昭和49年度の災害を契機に、小規模河川改修事業として下流部440m、災害復旧助成事業として上流部4,500mの改修が進められた。
- 災害復旧助成事業完了後、防潮水門・近鉄橋梁改築を含めた小規模河川改修事業3,966m、防潮水門より河口550mの小規模河川改修事業(河口計画)の整備が進められた。



■高潮・津波対策の状況（既存施設の構造）

- 田中川の河口には、高潮対策としての田中川防潮水門、マリーナ河芸の船舶の航行を踏まえた河口水深の維持・波の静穏性確保のために導流堤が整備されている。
- 田中川防潮水門は、昭和54年(1979年)に竣工しており、南海トラフ地震ではこれらの施設の機能が失われる恐れがある。
- L1津波※が発生した場合、津波高は3.3mと予想されている。
- 水門高さは、4.7m。河口部付近の道路高は、3.8mである。

※L1津波：過去最大クラスの津波(比較的発生頻度が高い津波)



【田中川防潮水門 諸元】
主ゲート：15.0m×4.5m 2門
副ゲート：2.5m×2.75m 2門
竣工年月日：昭和54年6月
鋼製ローラーゲート（電動）

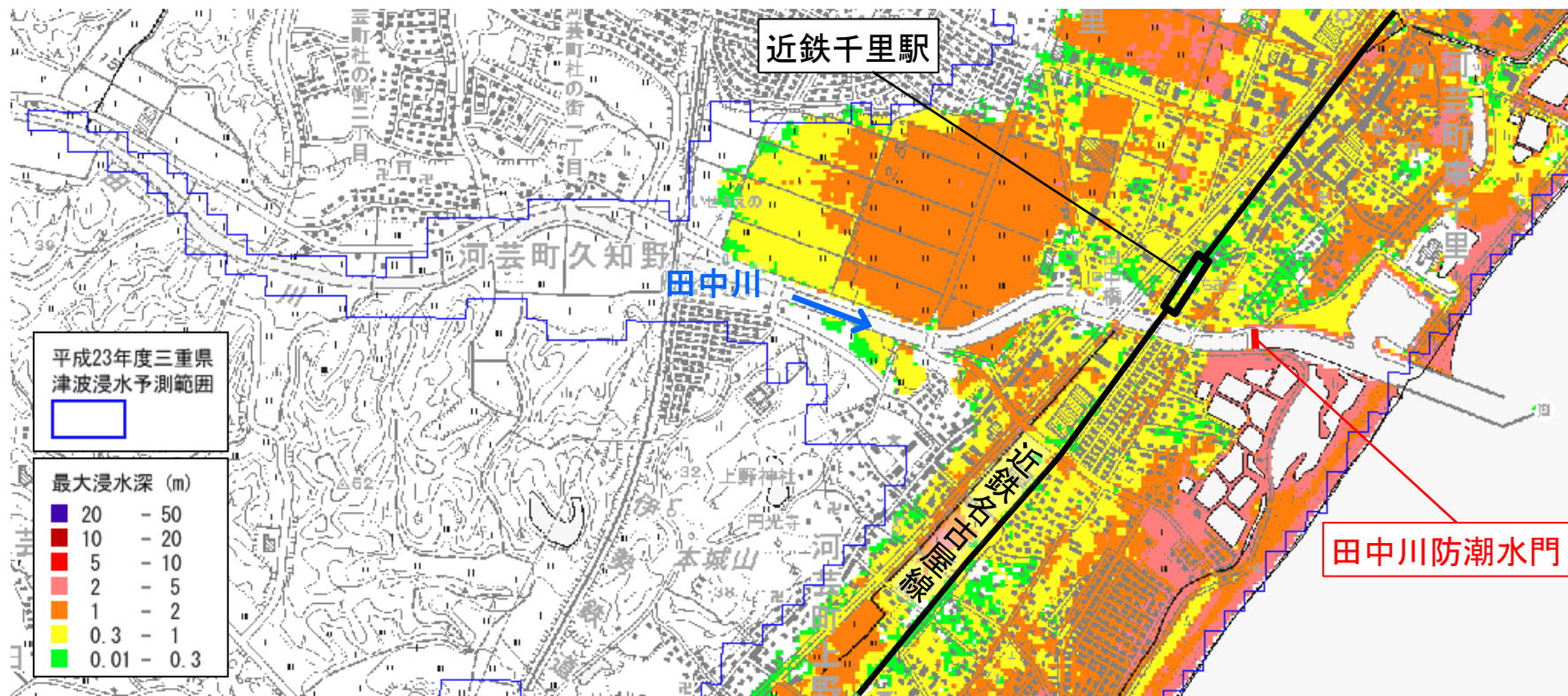


高潮・津波対策の状況（津波浸水想定）



- L2津波※¹が発生した場合には、浸水被害の発生が想定されている。その場合、近鉄千里駅周辺の市街地で0.3～1m程度の浸水、近鉄名古屋線なども浸水することが想定されているため、浸水エリア外への避難が必要となる。

※¹L2津波：南海トラフの理論上最大クラスの地震を想定した場合想定される津波



津波浸水予測図 津市



4. 利水の概要



□ 慣行水利権

区分	施設・井堰名	使用目的
慣行水利権	大道井堰	かんがい
慣行水利権	橋爪井堰	かんがい
慣行水利権	東井堰	かんがい
慣行水利権	御幸堰	かんがい
慣行水利権	里堰	かんがい
慣行水利権	里前井堰	かんがい
慣行水利権	農業用ポンプ	かんがい

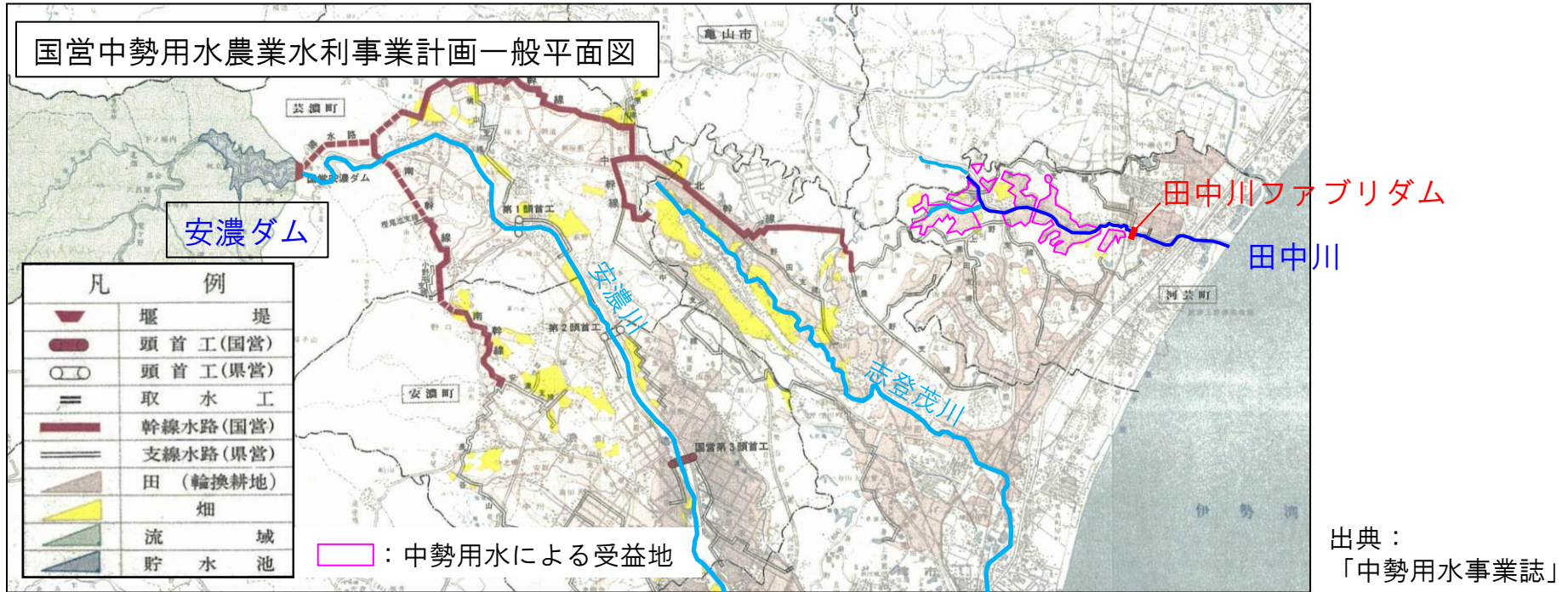
* 農業用ポンプ23件

□ 許可水利権

許可水利権は、無い

■ 水利用の現状

□ 田中川流域の農業用水の一部は、安濃ダムを水源とする中勢用水を利用して
いる。



□ 田中川では、井上橋下流に、可動堰である田中川ファブリダムが設置されている。



【田中川ファブリダム 諸元】
 設置年月日：昭和53年2月
 高さ2.16m×河床幅25.0m
 可動堰
 左岸操作式
 空気膨張式



5. 環境の概要

環境調査の概要

□現地調査

平成28年10月に植生調査と植物相調査を実施した。

□文献調査

既存文献で確認されている田中川流域に生育・生息する動植物を把握するため、文献調査を実施した。



表 既存文献の一覧

文献名	発行年	発行
つし自然ガイドブック ～知ろう・歩こう・津 市の自然～	2013年3月	津市
田中川の生き物	-	田中川の生き物調査隊
三重県レッドデータ 2015 ～三重県の絶滅のおそ れのある野生生物～	2015年3月	三重県農林水産部

◇重要種の選定基準

- 「文化財保護法」(昭和25年,法律第214号)及び文化財保護条例
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年,法律第75号)
- 「環境省レッドリスト」(環境省)
- 「三重県レッドデータ2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～」(三重県,2015年)

◇外来種の選定基準

- 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年,法律第78号)



- 下流域：河口部にはハマサジ群落、ケカモノハシ群落など海浜特有の植物群落が分布
- 中流域：両岸の堤防のり面や砂州などにセイタカアワダチソウ群落が分布
- 上流域：ツルヨシ（抽水植物）群落やミゾソバ（湿性植物）群落が分布

下流域（河口～2.2k）

- 河口の砂浜や護岸上にはハマサジ群落やケカモノハシ群落などの塩沼、砂丘植物群落が分布
- 河道内（1.4k付近～）の砂州にはオオオナモミ群落が広範囲に分布



オオオナモミ群落

中流域（2.2～4.0k）

- 両岸の護岸上や堤防のり面、さらには砂州上など、セイタカアワダチソウ群落が広範囲に分布
- 河道内には抽水植物のヨシ群落、ツルヨシ群落等が分布



セイタカアワダチソウ群落

上流域（4.0～4.6k）

- 河道内には抽水植物のツルヨシ群落等が広範囲に分布
- ミゾソバ群落やジュズダマ群落などの湿性植物群落が主にかく乱されてできる砂礫地や砂州に分布



ツルヨシ群落





- 田中川全体で214種を確認
- 下流域：重要種14種（ハマサジ、ハマボウ）、
特定外来種2種（オオフサモ、オオキンケイギク）
- 中流域：重要種 1種（イチイ）、特定外来種0種
- 上流域：重要種 1種（ササユリ）、特定外来種1種（オオキンケイギク）



【重要種（16種）】

No.	科名	種名	下流	中流	上流	上流 (管轄外)	不明
1	デンジソウ科	デンジソウ	●				
2	イチイ科	イチイ	●	●			
3	アカザ科	ハママツナ	●				
4	バラ科	シロヤマブキ	●				
5	アオイ科	ハマボウ	●				
6	イソマツ科	ハマサジ	●				
7	リンドウ科	イヌセンブリ				●	
8	キク科	ハマニガナ	●				
9		ネコシタ	●				
10	ヒルムシロ科	イトモ	●				
11	ユリ科	ササユリ			●		
12	イネ科	アイアシ	●				
13		オニシバ	●				
14		ナガミノオニシバ	●				
15	カヤツリグサ科	ウマスゲ	●				
16		ヒロードテンツキ	●				
12科16種			14種	1種	1種	1種	0種

下流域（河口～2.2k）

- 142種の植物を確認
- 河口の砂浜や護岸上にはハマサジ群落やケカモノハシ群落などの塩沼、砂丘植物群落が分布
- 河道内（1.4k付近～）の砂州にはオオオナモミ群落が広範囲に分布

中流域（2.2k～4.0k）

- 107種の植物を確認
- 両岸の護岸上や堤防のり面、さらには砂州上など、セイタカアワダチソウ群落が広範囲に分布
- 河道内には抽水植物のヨシ群落、ツルヨシ群落等が分布

上流域（4.0k～4.6k）

- 147種の植物を確認
- 河道内には抽水植物のツルヨシ群落が広範囲に分布
- ミゾソバ群落やジュズダマ群落などの湿性植物群落が主にかく乱されてできる砂礫地や砂州に分布

【特定外来種（2種）】

No.	科名	種名	下流	中流	上流	上流 (管轄外)	不明
1	アリトウグサ科	オオフサモ	●				
2	キク科	オオキンケイギク	●		●		
2科2種			2	0	1	0	0





- 田中川全体で21種の魚類を確認。特定外来種はオオクチバス、ブルーギルの2種。
- 下流域：重要種4種（ゲンゴロウブナ、ミナミメダカ、カマキリ、ヒモハゼ）
特定外来種0種
- 中流域：重要種3種（ゲンゴロウブナ、ミナミメダカ、カマキリ）、特定外来種0種

【重要種（4種）】

No.	目名	科名	種名	下流	中流	不明
1	コイ目	コイ科	ゲンゴロウブナ	●	●	
2	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	●	●	●
3	カサゴ目	カジカ科	カマキリ	●	●	
4	スズキ目	ハゼ科	ヒモハゼ	●		
3目3科3種				4種	3種	1種



ヒモハゼ



カマキリ

下流域（河口～2.2k）

- 9種の魚類を確認
- ボラ、マハゼなどの汽水・海水魚、泥底を好むヒモハゼなどが確認されている。
- 重要種はゲンゴロウブナ、ミナミメダカ、カマキリ、ヒモハゼの4種が確認されている。

中流域（2.2k～4.0k）

- 3種の魚類を確認
- 重要種であるゲンゴロウブナ、ミナミメダカ、カマキリの3種を確認。



ミナミメダカ

【特定外来種（2種）】

No.	目名	科名	種名	下流	中流	不明
1	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル			●
2			オオクチバス			●
2目2科2種				0種	0種	2種



ブルーギル



オオクチバス



- 田中川全体で105種の底生動物を確認
- 下流域：重要種32種（マルタニシ、モノアラガイ、オサガニ、クシテガニなど）
- 中流域：重要種 2種（マルタニシ、モノアラガイ）
- 特定外来種は未確認



ハクセンシオマネキ

【重要種（32種）】

No.	目名	科名	種名	下流	中流	上流	上流 (管轄外)	不明
1	古腹足目	ニシキウズガイ科	イボキサゴ	●				
2	原始紐舌目	タニシ科	マルタニシ	●	●			●
3	盤足目	ウミニナ科	ウミニナ	●				
4		フトヘナタリ科	カワアイ	●				
5		カワザンショウガイ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	●				
6		タマガイ科	ネコガイ	●				
7	翼舌目	イトカケガイ科	ウネナシイトカケ	●				
8	新腹足目	ムシロガイ科	ムシロガイ	●				
9		エソバイ科	バイ	●				
10		テングニシ科	テングニシ	●				
11	頭橋目	オオシイノミガイ科	オオシイノミガイ	●				
12	基眼目	オカミガイ科	オカミガイ	●				
13		モノアラガイ科	モノアラガイ	●	●			
14	カキ目	イタボガキ科	イタボガキ	●				
15	マルスダレガイ目	バカガイ科	ヤチヨノハナガイ	●				
16			オトリガイ	●				
17		チドリマスオ科	クチバガイ	●				
18		フジノハナガイ科	フジノハナガイ	●				
19		ニッコウガイ科	オオモモハナ	●				
20			ユウシオガイ	●				
21			サクラガイ	●				
22		キヌタアゲマキ科	キヌタアゲマキ	●				
23		カワホトギス科	マゴコロガイ	●				
24		フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ	●				
25		シジミ科	ヤマトシジミ	●				
26	オオノガイ目	オオノガイ科	オオノガイ	●				
27	エビ目	オサガニ科	オサガニ	●				
28		スナガニ科	シオマネキ	●				
29			ハクセンシオマネキ	●				
30		ベンケイガニ科	クシテガニ	●				
31		モクズガニ科	トリウミアカイノモドキ	●				
32			ウレベンケイガニ	●				
11目27科32種				32種	2種	0種	0種	1種

下流域（河口～2.2k）

- 105種の底生動物を確認
- 汽水・海水性の種でウミニナ、ハクセンシオマネキなどを確認
- 重要種はカワアイ、フジノハナガイなど32種を確認

中流域（2.2k～4.0k）

- マルタニシ、モノアラガイなど2種（いずれも重要種）を確認



マルタニシ

上流域（4.0k～4.6k）

- サワガニ1種を確認



サワガニ



オカミガイ



モノアラガイ



- 田中川全体で58種の鳥類を確認
- 下流域：重要種14種（シロチドリ、コチドリ、ハマシギ、ズグロカモメなど）
- 中流域：重要種 3種（ハイタカ、コチドリ、タゲリ）
- 上流域（管理区間外）：重要種2種（コチドリ、ケリ）
- 特定外来種は未確認

【重要種（15種）】

No.	目名	科名	種名	下流	中流	上流 (管轄外)	不明
1	カモ目	カモ科	コクガン	●			
2	タカ目	タカ科	ハイタカ	●	●		
3	チドリ目	ミヤコドリ科	ミヤコドリ	●			
4		チドリ科	コチドリ	●	●	●	●
5			シロチドリ	●			
6			ケリ			●	
7			タゲリ	●	●		
8		シギ科	ハマシギ	●			
9			ミュビシギ	●			
10			ヘラシギ	●			
11			アカアシシギ	●			
12			ダイシャクシギ	●			
13			ホウロクシギ	●			
14		カモメ科	ズグロカモメ	●			
15			コアジサシ	●			
3目6科15種				14種	3種	2種	1種

下流域（河口～2.2k）

- 38種の鳥類を確認
- 干潟にはコチドリやハマシギなどのシギ・チドリ類がみられる
- 水域にはカルガモ、ホシハジロなどのカモ類がみられる



ホシハジロ

中流域（2.2k～4.0k）

- 17種の鳥類を確認
- オオヨシキリ、マヒワ、タゲリなどがみられる



オオヨシキリ

上流域（管理区間外）

- 14種の鳥類を確認
- アオサギ、キジ、ヒバリ、カワセミ、セグロセキレイなどがみられる



カワセミ



ケリ



シロチドリ



コチドリ



ハマシギ



- 田中川全体で181種の昆虫類等を確認
- 下流域：重要種13種（ヒョウタンゴミムシ、カワラハンミョウ、エンスイミズメイガなど）
- 中流域：重要種 3種（アワセグモなど）
- 上流域：重要種 3種（アワセグモなど）
- 特定外来種は未確認

【重要種（15種）】

No.	目名	科名	種名	下流	中流	上流	上流 (管轄外)	不明
1	クモ目	トタテグモ科	キノボリトタテグモ		●	●		
2		コガネグモ科	オニグモ	●				
3			コガネグモ	●	●	●		●
4		コモリグモ科	イサゴコモリグモ	●				
5		アワセグモ科	アワセグモ		●	●		
6		カワザトウムシ科	ヒトハリザトウムシ	●				
7	バッタ目(直翅目)	バッタ科	ヤマトマダラバッタ	●				
8	カメムシ目(半翅目)	ヨコバイ科	コミミズク	●				
9		ツチカメムシ科	ハマベツチカメムシ	●				
10		ナベブタムシ科	トゲナベブタムシ	●				
11	チョウ目(鱗翅目)	ツトガ科	エンスイミズメイガ	●				
12	ハエ目(双翅目)	ムシヒキアブ科	ハマベコムシヒキ	●				
13		ツルギアブ科	シオサイツルギアブ	●				
14	コウチュウ目(鞘翅目)	オサムシ科	ヒョウタンゴミムシ	●				
15		ハンミョウ科	カワラハンミョウ	●				
6目14科15種				13種	3種	3種	0種	1種

下流域(河口～2.2k)

・150種の昆虫類等を確認
 ・砂浜などでみられるヒョウタンゴミムシ(重要種)、オオスナゴミムシダマシ、コハンミョウなどがみられる



コハンミョウ

中流域(2.2k～4.0k)

・6種の昆虫類等を確認
 ・コガネグモなどのクモ類、ミドリシジミ、アオマツムシなどの昆虫類がみられる



ミドリシジミ

上流域(管理区間外)

・5種の昆虫類等を確認
 ・コガネグモなどのクモ類、ミドリシジミなどの昆虫類がみられる



コガネグモ



ヒョウタンゴミムシ



シオサイツルギアブ



ハマベツチカメムシ



ヤマトマダラバッタ



- 田中川全体で両生類8種、爬虫類5種、哺乳類4種を確認
- 下流域：重要種 3種（トノサマガエル、アカウミガメ、ニホンイシガメ）
- 中流域：重要種 2種（トノサマガエル、ニホンイシガメ）
- 上流域：重要種 1種（アカハライモリ）
- 特定外来種は未確認

【重要種（6種）】

No.	目名	科名	種名	下流	中流	上流	上流 (管轄外)	不明
1	有尾目	サンショウウオ科	カスミサンショウウオ				●	●
2		イモリ科	アカハライモリ			●	●	
3	無尾目	アカガエル科	トノサマガエル	●	●			
4	カメ目	ウミガメ科	アカウミガメ	●				
5		イシガメ科	ニホンイシガメ	●	●		●	
6		スッポン科	ニホンスッポン				●	
3目6科6種				3種	2種	1種	4種	1種

下流域 (河口～2.2k)

- 両生類1種
- 爬虫類4種
- 哺乳類2種を確認



アカウミガメ



カスミサンショウウオ



アカハライモリ

中流域 (2.2k～4.0k)

- 両生類1種
- 爬虫類1種を確認



ニホンイシガメ



トノサマガエル



ニホンスッポン

上流域 (管理区間外)

- 両生類1種 (アカハライモリ)
- 爬虫類1種 (ヒバカリ) を確認

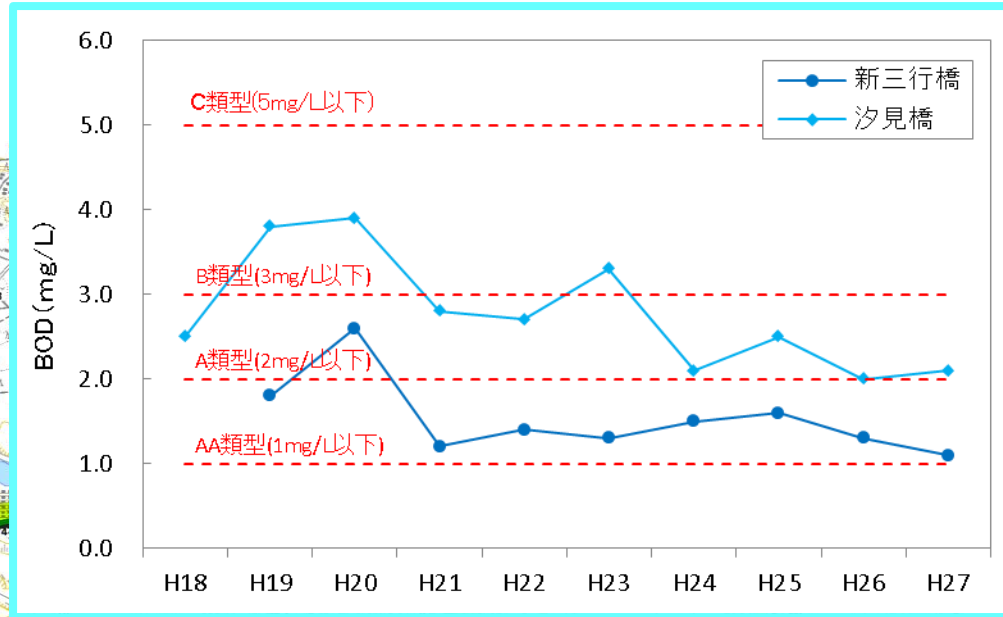


ヒバカリ

河川水質の推移



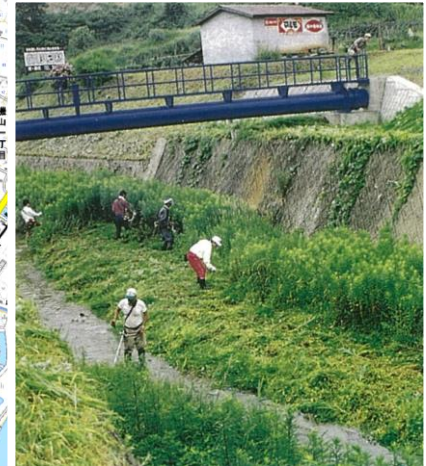
- 田中川は津市によって月1回の水質調査が行われている。水質環境基準の類型指定はされていない。
- 下流部の汐見橋と上流部の新三行橋が調査地点である。
- 近年のBOD値は、新三行橋でA類型、汐見橋でB類型を満足している。



河川空間の利用状況



- 田中川左岸には、親水公園である伊勢上野公園があり、身近な公園として利用されている。
- 地域の人々の手により、草刈りなどの清掃活動が行われている。
- 今後、**流域の住民**に対しアンケート調査の実施が予定されている。
(平成29年1月頃、平成29年4月頃)



(上) 田中川の草刈りのようす
写真出典：「わたしたちの河芸町」



(左) 伊勢上野公園



6. 今後の進め方

■今後の進め方



第1回流域委員会（H28年12月26日）

- ✓ 流域の概要、現地確認

今回

第1回アンケート（H29年1月頃）

- ✓ 関係住民の意見聴取

第2回流域委員会（H29年3月頃）

- ✓ 治水・利水・環境の現状と課題
- ✓ 河川整備計画（骨子）の提示

第2回アンケート（H29年4月頃）

- ✓ 関係住民の意見聴取

第3回流域委員会（H29年7月頃）

- ✓ 河川整備計画（原案）の提示

関係機関協議・関係市町意見聴取

公表